

## IBS フェローシップ活動報告

IBSは、わが国の学術研究活動に寄与することを目的として、研究助成制度（IBS フェローシップ）を実施している。これは、IBSの創立30周年を記念して創設されたもので、1994年度より第1回目開始された。以降、毎年2課題についてそれぞれ一人の研究者を公募し、2年間の研究期間にわたり、海外における特定課題の研究を助成し、研究成果を公表している。

これまでに18編の報告がなされ、2編は現在継続中、平成17年度は新たに1課題の委嘱研究者を決定した。

本年度は、研究成果として第9回の第1課題「韓

国における土地区画整理手法の変遷」(委嘱研究者 朴 承根)ならびに第2課題「レッチワース田園都市の財政状況の歴史の変遷の分析」(委嘱研究者 中井 検裕)について最終報告がなされた(概要を pp. 66～77 に掲載)。

また、新たに2課題について公募し、4名の応募者の中から選考の結果、第11回目として1名の研究者に研究を委嘱(第2課題は該当なし)した。研究課題と委嘱した研究者は次の通りである。

平成18年度は、平成18年4月頃公募を開始する予定である(募集要綱はホームページに掲載予定)。

## 平成17年度の新たな研究課題と委嘱研究者

## 第11回第1課題：「シンガポールの都市国家形成の評価」

シンガポールは現在世界で成功した都市国家の代表的なものであり、国家であるのみならず同時に都市であることが特徴である。シンガポールの成功については国家の形成の面、都市交通や都市再開発に関する面についていろいろな検討結果が報告されているが、都市づくりを国家レベル、都市レベルにわたって、またハード、ソフトの整備にわたって、さらに、趨勢的動向と計画的制御の面にわたって統一的な評価をまとめることが求められている。そこで、20世紀後半のシンガポールの都市づくりを多面的にとらえ評価し、その成功要因を抽出する。そのうえで、今後、成熟化の段階に達すると思われるシンガポールの課題を整理する。

藤井 康幸 (みずほ情報総研株式会社)

表 研究課題および委嘱研究者

(肩書きは最終報告時)

第1回 1994年度	第1課題 「業務拠点都市・クロイドン開発の歴史的経緯」 西山 康雄 (東京電機大学 建築学科 教授)
	第2課題 「Milton Keynesにおける自動車の利用と道路計画に関する実証的研究」 高橋 洋二 (東京商船大学 流通情報工学科 教授)
第2回 1995年度	第1課題 「Hammerfestの戦後復興における市街地整備に関する研究」 谷口 守 (岡山大学 環境理工学部 環境デザイン工学科 講師)
	第2課題 「キティマツトリーソース・フロンティアにおけるサステナブル・ディベロップメントの可能性」 榎戸 敬介 (株式会社 アーバンハウス都市建築研究所 研究員)
第3回 1996年度	第1課題 「地方空港の歴史と将来 —シャノン・ガンダー・中標津—」 田村 亨 (室蘭工業大学 助教授)
	第2課題 「新首都の誕生と成長 Canberraの100年」 岸井 隆幸 (日本大学 理工学部 土木工学科 教授)

第4回 1997年度	第1課題 「田園地帯の計画と保全—田園都市論の影響と今日的意義—」 風見 正三 (大成建設 設計本部 環境デザイングループ)
	第2課題 「ロンドン・ミューズの誕生・死・再生—世界の都心居住空間の再生を目指して—」 宇高 雄志 (広島大学 工学部 建築学科 助手)
第5回 1998年度	第1課題 「ローマ市郊外と東京都市圏の大型ショッピングセンター形成化にかかわる比較研究」 堀江 興 (新潟工科大学 大学院 教授)
	第2課題 「メキシコの小都市メックスカルティトランの都市の自立性とその将来について」 斉藤 麻人 (ロンドン大学 政治経済学院 地理環境学部 大学院)
第6回 1999年度	第1課題 「カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察」 勝又 太郎 (株式会社 東京三菱銀行 ストラクチャードファイナンス部)
	第2課題 「欧州と日本における港湾と企業物流の動向」 土井 正幸 (筑波大学 社会工学系 教授)
第7回 2000年度	第1課題 「コパカバナ地区で働く人々の住宅と職場の関係」 土生 珠里 (九州大学大学院 人間環境学研究所 空間システム専攻 社会人博士課程)
	第2課題 「イギリスの地方都市ニューベリーのバイパス道路について」 村上 睦夫 (株式会社 都市プラン研究所 代表取締役)
第8回 2002年度	第1課題 「米国大都市圏計画制度の経緯と背景にある政策意図の分析」 服部 圭郎 (明治学院大学 経済学部 講師)
	第2課題 「『サッチャリズムの都市計画』の特徴と成果、問題点の考察」 東 秀紀 (清泉女学院大学 人間学部 教授)
第9回 2003年度	第1課題 「韓国における土地区画整理手法の変遷」 朴 承根 (東京大学先端科学技術センター 研究員)
	第2課題 「レッチワース田園都市の財政状況の歴史的変遷の分析」 中井 検裕 (東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授)
第10回 2004年度	第1課題 「パリ大都市圏開発におけるニュータウン整備公社の評価」 川野 英二 (大阪大学大学院 人間科学研究科 助手)
	第2課題 「東南アジア諸国における人力車(シクロ、その他)の成立と発展過程の都市交通機能から見た分析」 黒川 基裕 (高崎経済大学 地域政策学部 講師)
第11回 2005年度	第1課題 「シンガポールの都市国家形成の評価」 藤井 康幸 (みずほ情報総研株式会社)

#### IBS フェローシップ実施要領 (抜粋)

- 課題は毎年原則として2課題とし、それぞれ、1名の研究者に委嘱する。
- 研究者は、学歴、職歴を問わないが、海外生活経験者を原則とする。
- 募集は関係機関(大学、団体、学会その他)機関紙・誌等を通じての公募とし、運営委員会の選考を経て、研究者を決定、公表する。
- 選考された研究者は、以下の報告の義務を負う。
  - ① 選考された年のIBS創立記念研究発表会(通常7月14日)に研究方法の概要を発表
  - ② 2年目の同発表会に中間報告を発表
  - ③ 同年度末までに最終報告書を提出
  - ④ 3年目の同発表会に最終報告を発表
- IBSは、提出された最終報告書を3年目の発表会で公表する。
- 上記以外の研究成果の発表は研究者の自由である。
- 提供する研究費は毎年定めるが、その用途についての制限は設けない。研究者が研究費により入手した資料の所有権は研究者に帰属する。